

ズーム・アップ・カメラ・アイズ

博多港の安全と 博多の街の発展を見守る 「博多ポートタワー」

(福岡県福岡市)

パシフィックコンサルタンツ株式会社
コーポレート／人事部／人事室松野 奈実 (会誌編集専門委員)
MATSUNO Nami

福岡一の繁華街である天神からも近く、博多を代表するウォーターフロントの1つとして知られる博多港。その博多港のシンボリック存在が「博多ポートタワー」だ。1964(昭和39)年にレジャー施設「博多パラダイス」のメイン施設として誕生し、2024(令和6)年には開設60周年を迎えた。福岡市には博多ポートタワーの他に、福岡タワーというランドマークとして先進的なフォルムを持つタワーもあるが、博多ポートタワーは中心市街地に近く、外航クルーズ船や近郊の海上交通船舶も集まる海の玄関口に立ち、博多港の安全を見守っている。

タワーの高さは100m、地上70mにある展望室からは博多港と福岡市街が一望できる。また、夜にはライトアップが施され、博多港の美しい夜景の一部となる。



博多ポートタワー

年間約20万人が訪れる観光スポットとして長年にわたり親しまれている。

1964(昭和39)年、博多ポートタワーはジェットコースターやメリーゴーラウンドなどの遊具施設や宿泊施設、演舞場や温泉などを盛り込んだ九州一の娯楽施設「博多パラダイス」のメイン施設として誕生した。当時のタワーには、座席フロアが10分間で1周し360度の風景を座ったまま楽しむことができる回転展望グリルがあったという。回転展望グリルの名残として、現在のタワーにもレールの跡がかすかに残っている。タワーを訪れた際には景色だけでなく、床にも目を向けてみてほしい。開園当初は大変にぎわったという博多パラダイスだが、ブームは長くは続かず、跡地はFBS福岡放送、市立図書館へと転用され、タワーは1976(昭和51)年に博多港PRセンターとして開館した。その後、1991(平成3)年には博多埠頭第1ターミナルと併設する複合施設である現在の「ベイサイドプレイス博多」が建設された。周辺の景色が変化する中、タワーは変わらず存在し続け、博多のウォーターフロントの発展を長きにわたって見守ってきた。

現在、タワーの展望室上階には、レーダーや無線通信などで博多港を出入する船舶の動静を把握しつつ、入出港する船舶などに港湾の混雑状況や気象など航行に必要な情報を24時間体制で提供する国際VHF海岸局が運営されており、観光スポットとしてだけでなく、船の安全な運航に欠かせない存在となっている。また、タワーの隣には「博多港ベイサイドミュージアム」がベイサイドプレイス博多から移転オープンし、博多港が果たす役割を楽しく学べるようになっている。



ライトアップされたベイサイドプレイス博多と博多ポートタワー



博多港



床に残るレール跡(回転グリルの名残)



展望室からの眺望(市内)



展望室からの眺望(博多港)

タワーの設計は1954(昭和29)年に誕生した名古屋テレビ塔をはじめ、通天閣(二代目)や別府タワー、さっぽろテレビ塔、東京タワーを手掛けた「塔博士」とも呼ばれる内藤多伸である。内藤が初めて鉄塔を手掛けたのは1925(大正14)年のことだ。日本最初の放送である社団法人東京放送局(現在のNHK)によるラジオ放送開始のため、高さ45mの日本初の電波塔を設計したのが始まりである。戦後、内藤は名古屋テ

レビ塔から東京タワーまでほぼ1年に1塔のペースでタワーの建設に携わり、東京タワー誕生から6年後には博多ポートタワーを手掛けた。内藤が手掛けた6つのタワーのうち最後に誕生したことから、「タワー6兄弟の末っ子」とも呼ばれる。

2019(令和元)年には施設保全のための改修工事に入り休館、その後2022(令和4)年に再オープンを果たした博多ポートタワー。2024(令和6)年には開設60周年を迎え、それを記念して特別ライトアップやナイトクルーズなど、多数のイベントが開催され、盛況に終わった。これまでもこれからも、博多ポートタワーは博多港の安全と発展を見守り、市民から愛され続けるだろう。

<参考資料>

- 1) 福岡市ホームページ、博多ポートタワー・博多港ベイサイドミュージアム
https://www.city.fukuoka.lg.jp/kowan/somu/hakata-port/port_museum.html
- 2) 山梨県立博物館ホームページ、山梨近代人物館、内藤多伸
http://www.museum.pref.yamanashi.jp/3rd_jinbutsu/jinbutsu50_naito_tachu.html
- 3) 博多ポートタワー開業50周年記念「博多パラダイス～博多港の戦後フォトグラフ」、2014、編集:アソシエ地図の資料館 監修:福岡市港湾局

<写真提供>

P40左下、P41左上写真:松元涼子 P40右下、P41右中、左下写真:松野奈実
P41左上写真:佐治雅之 P41左中写真:松田明浩



博多港ベイサイドミュージアム